

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402150		
法人名	有限会社高原		
事業所名	グループホームあすなろ		
所在地	長崎県雲仙市吾妻町馬場名277番地		
自己評価作成日	平成30年2月6日	評価結果市町村受理日	平成30年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成30年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様それぞれが、穏やかに、生き生きと、自分らしく過ごせる為に、どのように関わったらいいか、スタッフ間で話す時間ふり返る時間をとるようにしている。
 毎日昼食前に嚥下体操を行い、経口にて食事が出来るよう支援している。
 他者との交流、手足の運動、季節の歌を通して認知症の進行が緩やかになるように、または歌うことで楽しみながら穏やかに毎日を過ごしていただくことを目的とし、毎週水曜日、音楽レクリエーションを行っている。
 又、良い刺激を頂ける環境づくりとして、外部からのボランティアの訪問をお願いしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域住民が生活の中で日常的に使用する沿線に隣接する場所に位置する当ホームは、入居者が住み慣れた場所で自分らしく生き続けることを大事にした支援に努めています。入居者や家族の思いをくみ取り、家庭的な雰囲気の中で、その入居者にとって望む暮らしとはどのようなことなのかを日々職員間で理解しながら、入居者それぞれに応じた支援に努めています。今年度は前管理者の定年退職に伴い、職員の勤務体制も新たなものに変えながら、さらなる支援の充実につけています。ホーム玄関にはグランドピアノの設置があり、週に1回音楽リハビリで回想法を取り入れると共に、地域からもアロマやお化粧のボランティアを受け入れるなど、入居者がホッと落ち着く空間が作られています。年に数回、ホールで地域の方や子どもさんによるピアノのミニコンサートが開催されるなど、地域の中での存在感や理解が図られ、今後ますます期待の持てる様子が窺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 さくら棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「穏やかに、いきいきと、自分らしく」を事業所の理念とし、毎月会議の際に口にだして確認している。 スタッフ一人ひとりが理念に対する意味を考え、意見交換を行っています。	職員は、年頭の会議において、「自分が思っていることは何なのか」と理念をかみ砕いて振り返り、「この人にとっての穏やかさとは、生き生きとは、自分らしくとは」を掘り下げながら支援に繋がっています。入居者とゆっくり関わりながら、それぞれの個性を大事にした理念の実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	二、三ヶ月に一度、地域の美容室の方に散髪をお願いしている。 近隣の洋服店の方に訪問して頂き、衣料品を購入している。	ホーム周辺は田畑が広がる環境にあり、入居者の外気浴や職員からの挨拶によって近隣の方と顔が見えるお付き合いに繋がっています。ホーム玄関のホールでは、地域の方を招いて地域のピアノ教室のミニコンサートが開かれることもあります。音楽を通して地域の方が集まる場所にも繋がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設長は地域ケア会議、県・半島・市GH連絡協議会会議、地域連携推進会議、見守りネットワーク推進会議に参加しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターの職員や民生委員の方、派出所の警察の方等に出席していただき、意見、情報を共有しています。	推進会議では、参加者にありのままを話すことによってホームが気付かない課題やアドバイスを頂く場となり会議が有効に活用されています。事例を通して、それぞれの立場からの考えや思いを話し合い、現状の確認作業や今後の支援に繋がっています。家族の参加が難しい現状にありますが、利用する立場からの意見を聞くためにも今後も継続した働きかけが望まれます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新、福祉に関する手続き等で市役所に出向いた際、ホーム内の状況等を話し協力関係を築いている。	管理者、及びケアマネは、高齢者福祉に関わる地域の会議に参加することによって県や市町村の方針を理解しながら、入居者及び地域の安心に繋がっています。入居者の暮らしに支障が出た際には適切な関係機関へとつなぎ、市町村と共に課題解決に向け対応しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する資料等をスタッフで閲覧し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は「身体拘束はしない」方針で入居者と関わり、入居者の行動の理由や辛さを理解した対応に努めています。現在入居者の高齢化に伴い身体機能の低下で見守りの必要性が増えている入居者も多数いらっしゃいますが、それぞれの見守りに対する距離感や、対応方法等を職員で共通認識し、入居者の負担にならない対応に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で資料等を読み返し、周知して虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレット等を全スタッフが読み返し、理解するよう努めている。 活用するような事例は今のところない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約時だけでなく、見学、相談時にも説明させて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎回ではありませんが何か要望やご意見がないかご家族の面会時に伺うようにしています。直接言わずらい場合にも利用できる意見箱を設置しています。	基本的には活字でのやり取りでは思っていることが伝わりにくいことを理解し、電話でのやり取りや家族の面会時には日頃の様子を伝え、リスクに関する情報の開示やケアの方針について理解を図っています。話をしやすい雰囲気を作りながら家族と関わり、また定期的に担当職員による便りや写真を家族に送ることは、家族も喜ばれている様子が窺え、良好な関係性が築かれています。	入居者や家族が抱く課題には迅速に解決に導く姿勢で関わりを持ち、ホームは必要に応じて家庭に訪問するなど個別に話を聞きながらより近い関係性を築きたいと考えていますが、その反面、対面だからこそ伝えにくい潜在的な思いを抱えているご家族もいらっしゃることを理解し、さらに満足度を図る取り組みや今後の対応方法に期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や希望などがあれば話を聞き、会議で話合うようにしています。また書面として提案書を設け、個人の考えを尊重できるようにしています。	管理者は職員の身近な存在として関わりを持ち、入居者や職員が居心地のいい職場環境づくりに努めています。今年度はひとり一人とゆっくり食事の機会を持ち心をほぐす機会をつくりました。アンガーマネジメントやコミュニケーションに関する学びの機会を設け、職員間でも風通しの良い関係づくりに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の言葉に耳を傾け、環境改善を図ろうと試行錯誤され、向上心を持って働けるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会、勉強会に参加できるよう配慮して頂いています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加を促進し、他事業所との交流を通してサービスの質の向上を目指しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを行い、本人の思いを汲みとるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを出来る限り受け止め、職員全員で共有し対応できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、職員で常話し合いを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が出来る事は職員と共に行い生きがいや役割等感じて頂けるよう努めています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にもご協力をお願いしながら、三者間の信頼が保てるよう心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室、お墓参り等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めています。	入居当時にその方を囲む相関図を把握し、親せきや友人など、本人がこれまでに大切にしてきた関係性が、入居後も継続できるよう努めています。外出や外泊の機会を積極的に受け入れ、家族や友人と過ごす時間や、これまで住んでいた自宅に戻った充実感を理解し、家族とも協力しながら支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入浴時に会話をしたり、昼間に居室を訪れ雑談できるような場面をつくっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の施設に面会に行ったり、退所後にご家族から相談があれば支援を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、要望の把握に努めています。日々の会話の中で希望等が聞き取れるように努めています。また、ご家族と相談しながら意向の把握に努めています。	入居者との関わりを大事にしながら、その方の個性を理解し、過ごし方や意向がどのようなことになるのかを職員間で話し合い、その方の思いに沿った支援に繋がるよう努めています。その方の動作や仕草から大切にしている思いをくみ取り、その方の生き方を大事にした支援に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドをご家族に記入して頂き、その方にあった支援を模索して把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の意思を尊重し、出来ることを強要することなく、安全に日々を過ごして頂けるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議にて話し合う場を設け、各利用者さんに行う支援について話し合っています。場合によってはご家族に相談しています。	ホームは、毎月のミーティングでケアプランの実施状況をモニタリングし、支援内容がその方に応じたものとなっているか定期的に確認がなされています。家族への説明の際は、かみ砕いた言葉を用いながらわかりやすく説明し、家族の思いや専門性を持った関わりについての理解に繋がっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践等、個別記録に記入し、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	清潔の為に入浴日以外にも入浴を行ったり、必要になったサービスを臨機応変に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問カット、訪問販売等利用し、楽しみをもつことが出来るよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの通いなれた病院を利用しています。	ホームは、長年関わりを持つ医師が入居者や家族と関わることで安心感や相談しやすい関係性にあることを理解し、家族の方針を理解しながら適切な医療に繋げるよう支援しています。入居者の体調によっては医師からの説明に立ち合いの協力を得、現在の体調への理解や、今後考えられる変化への理解に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師の方々と情報交換や相談をしながら病院受診へとつなげています。また週に一回訪問看護に来られる看護師さんにもアドバイスを頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は心身の状態を細かく情報提供を行い、また、入院中は病院へ状態を尋ねたり情報交換を密に行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時から当施設の方向性をお伝えしており、段階的にご家族と話し合うようにしています。	現在は医療体制の問題から看取りまでの対応には至っていませんが、入所の段階でホームの方針を家族に説明し、その時々で今後の方向性を相談しながら医療や他の施設入居へと繋いでいます。ホームでは家族や本人の思いに寄り添いながら食事摂取の状況や医療の必要性が増える所までを支援し、ホームできる範囲の支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の介護マニュアルを備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	毎日夕方に屋外に異常がないか点検を行っています。また消防訓練は、年2回は行っています。	ホームは防災に関わる研修に参加し、施設における安全対策への知識を深めながら有事の際の処置の対応に努めています。様々な情報がある中、どのような対応がホームに適しているのか、日々試行錯誤する様子も窺われましたが、今年度は防災計画の策定や備蓄品の充実を図り自然災害について意識を持って取り組みました。今後も定期的な訓練の実施で、さらに職員の防災意識を高める取り組みが望まれます。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりに合った配慮ある声かけ、支援を行うよう努めています。	ホームは言葉かけ、言葉遣い、表情、まなざし、態度等、接遇の5原則を意識した関わりを大事に捉え、まずは職員間、入居者への配慮と相手のことを思いながら関わることを大事にし、お互いが注意し合える関係性に努めています。入居者の反応が自分の対応の写し鏡であることを意識しながら支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを感じ取り、出来るかぎり希望に添えるようにしています。 自己決定出来る場面をつくり対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を聞き、出来るかぎり希望を優先して携わるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思決定が出来る利用者さんには、ご自分が着たい洋服を選んで頂いています。 また、数ヶ月に一回、地域美容室の方に散髪して頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方にはスタッフと共に軽い作業をして頂いています。	ホームでは季節の食材を使い、入居者の様子を見ながら調理方法の変更や味付けに変化をつけ好みに応じた献立が調理されています。食事を囲むテーブルでは入居者と職員が輪になって言葉を交わし、笑顔で日々を楽しむ様子が窺われました。味付けやおかずの量等職員が言葉をかけながら、入居者の負担とならないように配慮されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに適した水分量、種類を考え何度かに分けて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方は介助に入り、その他は見守り、声かけを毎食後行う口腔ケアの支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけを行っています。	入居者はトイレでの排泄を基本とし、尊厳や自分の力でできるところはできるだけ自分の力でできるよう支援に努めています。身体機能に応じた下着の選択も本人の意向を踏まえながら対応を調整し、排泄によって本人の自信が損なわれない対応に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、食事の形態、水分の種類、飲水のタイミングにも工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日に囚われず、その時の状況によって入浴支援を行っています。	入居者それぞれのこだわりがあることを理解しながら、お湯の温度や入浴時間を調整しゆっくりとした時間が過ごせるよう努めています。日常生活動作によっては遠目で見守り対応することもあり、その方のペースを大事にしています。入浴を拒否する方へは入居者の日課や気分によって臨機応変に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも個人の状況に応じて、ご自分のタイミングやこちらからの声かけを行い居室にて休息頂いています。夜間もアロマ効果で安眠頂いている方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、看護師に相談し、服薬支援を行っています。また、提携している薬剤師とも相談しながらアドバイスを頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の習慣を考慮しながら週に一回、音楽やレクレーションの機会を設けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と買い物に出かけたり、ご家族様の協力による外出支援をしています。	ホーム周辺は豊かな田園地帯であることから、日常的に入居者と散歩に出かけ、季節や地域の方との会話を楽しんでいます。地域からの入居も多いことから家族と共に近隣の墓参りに歩いて出かける入居者もあり、気軽に気分転換が図られています。入居者の身体機能の低下によって外出も控えめな現状にありますが、今後も無理のない範囲で支援に繋げていくことが望まれます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持されていませんが、ご本人の希望や状況に応じて使用できるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望や連絡事項、相談があれば、電話の取次ぎや手紙の依頼など支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度、温度調整に留意しています。暖簾、カーテン、すだれ等を使い光の調整にも留意しています。	家庭にいるような落ち着いた色調で作られた共用空間は、入居者が安全に移動しやすい家具の配置となっており、職員がホールに訪れた入居者を温かく迎え入れることによって居心地のよい空間が作られています。今年度は地域からのボランティアによってアロマを取り入れ、入居者の癒しにも繋がりました。大きな日めくりカレンダーや季節の飾り付けは、入居者の暮らしの中で、日付や季節が混乱しないよう配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方々がそれぞれの居場所をつくり、ただ傍に居たり、仲良く雑談や談笑できるよう見守りながら支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着のあるものは、ご家族と相談しながら持参頂き使用しています。	入居者や家族と話し合いの元、本人が落ち着く家具の持ち込みや配置に努めています。使い慣れた家電製品や長座イスによって入居者の生活習慣が保たれています。畳の使用を希望される方にはフローリングから畳へ変更し、その場所が本人にとって寛ぎの場所になるよう努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所には手すり、又は手摺の代替ができる物を置き支援しています。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 クローバー棟

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「穏やかに 生き生きと 自分らしく」を理念に掲げ、今できる事を楽しく一緒に生活できるよう支援しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方と草むしりをしたり、花の苗を頂き育てたりと交流しています。また、ご近所の方々と駐車場にて近況の話をしながらコミュニケーションをとっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域中学校の職場体験の受け入れを行い、先生、生徒たちを通じて理解を深めて頂けるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加頂いている元商工会会長、包括支援センター職員、民生委員、警察官、ご家族の方々にホームの状況を報告しアドバイスを頂いたり、市や町の情報を頂いたりしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険要介護更新認定申請代行や福祉医療費受給者申請代行、その他有効な制度を活用できるか等、相談しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員、身体拘束しないケアに取り組んでおり、昼間の玄関施錠もしていない。研修等にも参加しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の防止に関する資料を作成し、いつでも閲覧出来るようにしています。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会やパンフレットにて学ぶ機会を持つようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前相談時や入所時等、しっかり時間をつくって頂き、十分な説明を行い納得頂けるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時や面会時、職員へ意見しやすい雰囲気づくりを努めており、ご本人やご家族様から要望があれば全職員で話し合うようにしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案など自由に投稿出来るよう意見箱を設置しています。個々に時間をつくり話を伺っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間の見直しや個々との面談を行い、職場、賃金の見直しなどされています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外での研修も出来るだけ参加するよう配慮されています。利用者さんへの携わりや心構えを話す機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会開催の研修会に参加させ、意見交換の場面をつくっています。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、本人やご家族へ困っている事、不安な事、要望を尋ねています。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	しっかりと聞き取りを行いホームでの生活を円滑にすすめていけるよう支援しています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様各々の生活の中で、その方に対して必要なサービスを加え対応しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方に出来る事、心身的に無理のない程度の軽作業をスタッフと共に役割をもって手伝って頂いています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんの変化や要望をご家族様にも報告、相談をしながらご本人にとっての最良な方向性を話し合いながら進めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来られた場合、居室でゆっくり過ごして頂いています。また、行きつけの病院に行くことで顔見知りの方との交流もできています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う方々や話ができる方々同士でテーブルを囲み、スタッフと共に会話したり、作業したりしています。	

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の様子も気にかけてながら、どうされているかご家族を尋ねたり、施設へ面会に行くこともあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何をするにも無理強いせず、本人の意向をくみ取るようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に入所前の生活を詳しく伺い、どういう生い立ちであったのか記載頂いたものを参考にしながら把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズム、心身の状態を把握し、小さな変化にも気付けるように記録に残し、情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度職員会議を行い、アセスメント、モニタリングを行っています。問題抽出後、主治医、ご家族と打ち合わせし、介護計画の見直しを行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア、気付きは個別に記録し、申し送りを行うことで職員間の情報共有をしています。状態変化も共有し、会議時に介護計画の評価、見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の雰囲気や状態を見て、その場面に応じたレクリエーションを行っています。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム周辺の環境を活かして田植え、稲刈り、野菜類の苗植えなど見学し、季節の移り変わりを感じられるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は本人の状態をかかりつけ医に報告、相談をしています。また、ご家族が付き添われる場合は、情報を共有しご家族から直接医師へ相談頂いています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護師に来て頂いています。一週間の状態変化などを伝えアドバイスを頂き、状態が悪化しないよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はアセスメント表を用いて、病院へ情報を伝えています。面会をしながら各セクションの担当者から回復状況を伺ったり意見交換をしています。また、退院時は看護サマリー等で情報共有しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前に施設としての方向性をお伝えしています。ご家族、担当医、施設とで密に話し、本人の負担を軽くするよう努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、急変や事故発生時に対応している。救急蘇生法の勉強会にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に点検、確認をし、避難訓練を実施しています。外の見回り、火元の確認を毎日している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は各入居者様への言葉づかいや態度に配慮しながら対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の状態に合わせて気持ちに耳を傾け、わかりやすい言葉がけや選択肢のある声かけで、自己決定しやすい場面をつくるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の予定などを伝え、本人が良ければ実践しています。気分が乗らないよう時は無理しないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様と会話しながら、どの洋服が良いか尋ねています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備が可能な方には手伝って頂いています。季節の食材などでどのようなものが作れるか入居者様より教えて頂くこともあります。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日に必要な量が摂れるよう声掛けし、摂取して頂いている。ジュースなども提供。体調により栄養ゼリーなども提供する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケアを行っています。口腔内の状況や義歯の状況を把握し歯科受診、往診の支援を行っています。毎日に義歯洗浄を行っています。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながらこまめに声かけ誘導を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がある方にはヨーグルトや牛乳、薬やお腹のマッサージをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりにお声をかけて入浴利用の支援をしています。お話をしながら楽しく入浴して頂いています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人の時間を大切にされている方は、お部屋で過ごせる環境づくりを支援し、昼寝をしたい方は誘導しています。また、夜間にはアロマオイルを使用して心地よい睡眠を支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をコピーし個々のノートに貼り確認しています。新しい薬が処方された場合は、説明をしっかりと聞き全職員に周知できるよう申し送りを行っています。提携の薬剤師からのアドバイスも受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が退屈されないよう会話したり、レクリエーションを行っています。気候が暖かい時は日光浴を行ったりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望を伺い、ご家族にご協力を頂きながら月に1～2回外出されています。		

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各利用者さんに尋ねて購入したい物、必要な物を伺い職員が購入しています。金銭管理は施設で行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある時は電話の取次ぎをしています。また、ご家族の顔が見たいとおっしゃれば時間を作って頂くようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々をリビングやホールに飾り、穏やかな雰囲気作り努めています。温度、湿度調節もリビングやお部屋でも行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんと一緒にいる事がいい利用者さん、お1人の時間を大切にしたい利用者さんに対してお好きな場所を選んで頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋の広さにあった使い慣れた物、思い入れがある物、テレビ、椅子をご自宅より持ってきて頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体状況に合わせて居室トイレ内、廊下壁に手すりを設置しています。リビング内にはトイレ、浴室の場所が分かりやすいようステッカーを貼っています。		